



## 1 なんだ支援してくれないのか

現地の工芸品の作成グループや学校を訪問した際に何箇所かで言われました。彼らの活動では現金収入が厳しようで、物品や金銭的な支援を求めてきます。現地の人の中にはボランティアをこのような金銭的な支援の橋渡しと捉えている人がいるようです。ここも同じかって最初は思っていたのですが、何回か通っているうちに打ち解け、ほとんどの場所では自分の活動について理解しています。

先日は、工芸品の販売店マップを作成しているときに訪れたお店でも”支援してくれないのか?”と言われました。商品の品質向上や新商品の提案などをしてみたいと思います。



訪れた木彫りの工芸品のお店

## 2 配属先の活動

今月は配属先の椅子の上で多くの時間を過ごしました。なかなか進まなかった広報(ちらし)を同僚と一緒に作らなかったからです。工芸品の特徴など、わからないところを同僚に聞きながらようやく完成しました。



### (1) ようやく動き出す兆し



熱い思いを語る同僚

政権交代による省庁の再編があり、職場に担当長官が常駐するようになりました。職場にも緊張感が出てきており、先日は挨拶を兼ねた全員での会議がありました。初めての経験だったのが、同僚がそれぞれ考えている事業をみんなの前で提案し、担当長官から直にコメントをもらっていました。これを基に予算がつくられているようです。職場全体で約100人、この挙手制の事業提案は約2時間かかりました。

### (2) 専門家の方との地方訪問

JICA専門家の方に声をかけていただき、地方に暮らす人の声を聞く機会に恵まれました。専門家の「まずは現地に足を運ぶ」という話を聞いて、久しぶりに三現主義を思い出しました。地方ロスパロスまでは舗装がきちんと整備されていない道を車で丸一日移動です。ここではお金がほとんど動いておらず、自給自足の生活が主流ですが、テレビ、スマホを買うためのお金はどうしてるんだ?という専門家から質問に、現地の方も「私たちもお金が必要で困っているんだ」と悩みを打ち明けていました。地方には産業がないため、首都ディリに地方から仕事を求めてきますが、受け皿は少なく問題は根深いようです。



今は使われていない  
地方に残っている伝統的な家



女性は小さい時から家事の  
手伝いをします



農業生産者グループからの  
聞き取りの様子

### 3 アガペ聾学校でのセレモニーに参加

アガペ聾学校での例年行われている活動報告会のセレモニーが父母等の関係者約100名が集まり行われました。自分も竹細工を生徒と一緒に作ったということで招いていただき、表彰までしていただきました。その場にいること自体少し場違いに感じましたが、表彰されて嫌な気持ちにはなりません。また頑張ろうと思いました。

また、生徒たちもこの日のために練習した手話の披露や楽器の演奏、そして、この国の英雄のような存在であるシャナナ・グスマン氏(初代大統領)も登場し、大盛り上がりでした。



東ティモールで人気のある  
シャナナ氏

### 4 ボランティア活動の紹介

日本大使館主催で、現地の政府関係者やボランティアの配属先の方に向けたボランティア活動の紹介が行われました。隊員のテトゥン語での自己紹介と同席した同僚の紹介、保健や観光分野の先輩隊員からの活動報告では、そこまでテトゥン語が上手に話せるようになるのかなと感じながら聞き入ってしまいました。そして、隊員が指導している合気道とソーラン節の披露や、日本食での懇親会を通して日本文化に触れる機会もあり、配属先の方も楽しんでいました。

### 5 新隊員を日本語学校へ

先日、赴任した2018年1次隊の新隊員メンバーを日本語学校へ案内しました。ここはJICA二本松訓練所でテトゥン語を教えているジュリアオ氏が日本語を学んだところです。今回はジュリアオ氏からの依頼で、ジュリアオ氏の初めて訓練所の教え子となる新隊員と一緒にってきました。

日本語を教えている先生もとても喜んでくださり、新隊員がテトゥン語での自己紹介する様子の動画を送付すると、ジュリアオ氏は誇らしそうでした。《第10号終わり》



日本語教室では約100人の  
学生が学んでいます